

# 月の都のサクラソウ

春から初夏にかけてのさらしなを代表する風物詩の一つが、千曲市羽尾四区にお住まいの塚田正志さんが育てているサクラソウです。

江戸時代に武家が新しい品種を作り出し、現在では「さらしなそう会」によって認定されたもので約三百種ほど、塚田さんは認定されていないものも含めて約二百種類、約五百鉢を育てているのですが、認定種の一つ「月の都」の苗を、わが家にも持ってきてくださいました。ここに掲載した写真は、塚田さんのお宅の庭で咲いていた鉢植えの「月の都」です。

この名前をだれがどのように付けたのか詳しいことはわかりませんが、うれしいのは、花弁が表裏ともに純白色であることです。江戸末期に作られた種類だそう、当時から「月の都」の色のイメージは白だったことになりました。「さらしな」の地名が呼び起こしてきた白のイメージと重なります。花弁の姿に、ほかのサクラソウと比べてもよりハート形を感じた女性もいるとのことで、「恋の里さらしな」にふさわしい花でもあると思います。

サクラソウは夏場の管理が難しく、半日陰はんじかげんになるようなどに鉢を置いて朝か夕方に水をたっぷりかけてあげるそうです。30度を超える日に水やりを忘れると、ほとんど枯れてしまうそうです。毎年長い時間をかけても花を楽しむことができるのは、ほぼ2週間。ご自宅の庭に展示された鉢植えのサクラソウの群舞は圧巻です。「月の都」のほかにも、「月の宴」「真如の月」「雪月花」、さらに「美女の舞」など、命名の由来を想像するのが楽しい鉢植えがたくさんあります。

月の都